

## 雲 取 山 山 行 記 録



山頂到着



朝の雲取山荘前



富士山を背に

|     |         |     |                        |
|-----|---------|-----|------------------------|
| 目的地 | 雲取山     | 期 日 | 平成22年3月13～14日（土・日）・晴れ  |
| 山人人 | 笠原正雄・澄子 | 特 記 | 3度目の雲取山。予定変更で三条ノ湯に下りる。 |

| 地 点 名                   | 時 刻         | 記 事   |
|-------------------------|-------------|---|
| <b>3月13日</b> （晴れたり曇ったり） |             |   |
| 与 板 発                   | 午前 5:25     | 暗い中出発。上越のスキー場の雪はタツプリ残っている。高坂 SA でお握り朝食。   |
| 鴨 沢 バス 停 P              | 9:45 着      | 十分空きがあった。歩行準備中、バスが着き、登山客が大勢降りて来た。道路わきに僅か雪が残っていた。  |
| 〃                       | 10:10 発     | 良く晴れて暖かいが、コンクリート坂から杉林に入るとヒンヤリとする。   |
| 小 袖 道 に 上 る             | 10:40       | ここの駐車場にも 10 数台があった。舗装道を 5 分で登山道に上る。下山者と会う。  |
| 杉 植 林 地                 | 10:50 前後    | 雪が混じる道となる。風倒木が目立つ。道を跨いでいる物も多い。右下に小袖への舗装道が見える。もう一人下山者とスライド。この後数人が下りて来る。  |
| 単 独 若 者 が 追 越 す         | 11:10       | 廃屋のある所で追い越される。ザックにスノーシューを担いでいる。   |
| 登 山 道 に 岩 の ある 所 で 昼 食  | 12:10～12:35 | 雪混じりで地面は濡れている。丁度いい具合に岩があった。テーブル代わりにして湯を沸かしクロワッサンとポタージュスープでランチ。男女 6 人隊と前後する。男 3 人隊がやって来た。                        |
| 堂 所                     | 12:45       | 通過。陽が陰り、風が出て来た。少し寒く感じたが、シャツとベストで進む。   |
| ブ ナ 坂 分 岐               | 午後 1:45     | 分岐で前期 6 人隊が先着していた。彼らはブナ坂を進む。右折して七ツ小屋方向に上る。風を感じなくなった。男 2 人が先行する。   |
| 七 ツ 石 小 屋               | 2:00～2:05   | 休憩 300 円とある。入って湯を沸かしコーヒーを飲みたいと思ったが、通過。  |
| 風 強 ま る                 | 2:20        | V 字ターンして南西尾根に出ると、日差しはあるものの強風となる。戻って風を避け、ヤッケ上衣を着る。すっかり雪道となる。5 分後ブナ坂と合わせる。  |
| 石 尾 根 に 上 が る           | 2:45～2:55   | 前記男女 6 人隊が先着していた。ブナ坂経由の方が早い。風強く、反対斜面に樹林に入り湯を沸かしてコーヒープレイク。石尾根七ツ石山方向の踏み跡があるが、細い。歩き出せば風が更に強まる。                     |
| へ リ ポ ー ト               | 3:20        | 小雲取山の先に山頂小屋が見える。10 数人が最後の登りだ。   |
| 小 雲 取 山                 | 3:35        | 通過。この後妻を自分のペースで登らせ、一人高速で登ってみる。多数を超越す。   |
| 山 頂 避 難 小 屋             | 4:15        | 7～8 人が居た。既に寝袋に入っている者も居た。ドンドンと人が上がって来る。我々を除いて皆が軽アイゼン又はアイゼンを履いている。小屋への下りに備えて軽アイゼンをいつでも出せるようにして山頂へ行く。風が止んで穏やかになった。 |
| 山 頂 から 山 荘 へ            | 4:25        | 山頂の展望は曇りで皆無。記念の写真のシャッターを押して貰って山荘へ下る。  |
| 雲 取 山 荘 着               | 4:50        | 陰鬱な樹林帯を下るが、雪が所々固い。それでも何とか無アイゼンでこなせた。宿泊人数は 70～80 程度か。2F で数歳上の夫婦と同室。早速一杯開始。彼らは自炊泊で自炊小屋に行った。豆炭コタツで寝入る。夕食の呼び声で目覚める。 |
| 夕 食                     | 6:30        | 食堂は満員。下山コースについて情報を聞く。六ツ石山へのトレースは無かったと聞く。ワンカップ購入。8 時就寝。夜中、星は見えしたが都心の夜景は雲の中。                                      |
| <b>3月14日</b> （終日快晴）     |             |   |
| 雲 取 山 荘 発               | 6:20        | 朝食は 5:30 からだが、我々は摂らず。αワカメ飯に湯を貰って入れる。昨日のスノーシュー男が三条ノ湯へ下ると云う。そちらへ下りることを最終決定する。軽アイゼンスタート。山荘前は歩き出しの人で賑わっている。快晴。      |
| 雲 取 山 頂                 | 6:50        | 良く晴れてお目当ての富士山を見る。   |
| 山 頂 避 難 小 屋             | 6:55～7:45   | 一人土間で寝袋で寝ていた。α 飯で朝食。コーヒーを飲む。小屋最後の客となる。若者男女が同じコースへ先行して行った。   |
| 飛 龍 山 分 岐               | 8:10        | 固めの雪と新雪が混じる尾根下り。ここで幕営 1 張、男 3 人。この後、山腹の道。   |
| 若 者 男 女 に 追 付 く         | 8:25        | 日差しの中の下りだったが、暖かくなりここでフリースを脱ぐ。   |
| アイゼンを外す                 | 8:30        | 雪が薄くなった。更に日差しを受けて暖かくなる。   |

|        |            |  |
|--------|------------|--|
| 上山者来る  | 8:45       | 単独男、続いて5分後男4人隊。その後、若者男女を追い越す。途中から土の道。  |
| 三条ノ湯   | 9:50~11:15 | 数人が居た。山荘管理人は作業中で不在。裏手に下りて湯に入る。いい湯だ。さっぱりして、山荘前のベンチで最後の「のどごし生」缶とカップラーメン。もう少し飲みたい。管理人が戻った所で350缶を買う。後続が下りて来た。  |
| 後山林道終点 | 11:35      | 溪谷に付けられたへつり道から橋を渡り舗装道に上る。林道を下る。日影は路面凍結で滑る所があった。未舗装となる。森林作業の軽トラ2台あり。  |
| ヒッチハイク | 12:05      | 軽トラが下って来た。頼んだら、快く乗せてくれた。森林組合職員で、林地の写真撮影に来たという。妻は助手席、俺は荷台に、アリガタヤ。途中、先行して歩いていた若者男女と男3人隊を追い越す。遠慮がちに手を振った。ガタゴト道だが、歩く労力に比べれば楽チンである。   |
| ゲートを出る | 12:20      | 施錠されている。ガードも一時除けて舗装道となる。近くに自家用車1台あり。   |
| 鴨沢バス停P | 12:30      | お祭りの国道までで十分なのだが、なんとここまで連れて来て貰った。   |
| 水根集落   | 午後1:00頃    | 青梅街道から水根沢の車道を進み、六ッ石山への登山口を確認に行く。今日は結構大勢が登って行ったとのことだ。また、登山道を整備するとマウンテンバイクが上って行って、道が荒らされる。以前は整備したが、バイクに入って貰いたくないので最近では整備していないと聞いた。<br>国道の水根バス停まで1.1km。バス停そばには公営無料大駐車がある。 |

富士山を眺めながら、陽だまり山行を期待した。そして、もう一度雲取山荘に泊まり、豆炭コタツで昼寝をしたい。これが今山行の動機である。2日目には石尾根を下り、鷹ノ巣山に上り、六ッ石山から水根バス停に下山するという計画だった。

ところが、関東地方に寒波が入り、積雪があった。雪の無い道を歩きたいと思っていたのだが、全体の半分以上が雪歩きだった。なおかつ、上記のように六ッ石山に向かうコースの踏み跡が細い。無雪期でもコースタイムは結構長いほうである。従って、そちらへ下山は早々に諦めた。同じ道を下り、鴨沢に戻るか、2時間以上の後山林道を下るかの選択は翌朝まで決め兼ねた。夕食時、三条ノ湯から上って来た男の話では、トレースが無く8時間も掛かったとのことである。三条ノ湯コースは山頂への最短ではあるが、歩きたいと思ったことは無い。けれども、この際だから、三条ノ湯を覗いてみたかったし、話の種に歩くのも良かろうと思い、そちらに下ることにした。

ラッキーだった。軽トラに乗せてもらい、一時間半以上も早くに鴨沢に戻れた。林道歩きの疲れも無くて済んだ。青梅街道から吉野街道を進み、吉野梅郷を見物して来た。快晴でポカポカ陽気に大勢の梅見客で混雑していた。

この時期雲取山にこれほど多くの人たちが登っているとは想像していなかった。さすがに東京都の山だ。また、三峯からの者も何人かいた。